

第9回新潟血液免疫学研究会

日 時 平成6年2月4日(金)
午後6時30分～8時40分
会 場 新潟大学医学部 有壬記念館
2F 大会議室

I. 一般演題

1) 単クローン性 γ グロブリン血症を伴った特発性血小板減少症の1例

今成 朗・大西 昌之 (新潟南病院内科)
渡部 透

63才の女性で1992年夏より紫斑が出現、1993年7月13日吐下血あり某病院受診。びらん性胃炎、血小板減少を指摘され15日当院入院となった。

前胸部、両前腕、両下腿に点状出血がみられ、白血球正常で貧血はなく、血小板 $2.1 \times 10^4/\text{cmm}$ と血小板減少が認められた。生化学、出血性素因検査は異常なく、免疫グロブリン定量は正常。PAIgGの上昇がみられた。骨髓は正～過形式で巨核球 $140.6/\text{cmm}$ と正常で形質細胞、5.2%と軽度増加みられ、IgG κ のM蛋白が検出された。

プレドニゾロン投与にて血小板増加し退院となった。本症例は異型形質細胞が産生する異常免疫グロブリンがITPの発症に関与している可能性があると思われた。

2) ビタミンC、柴朴湯、プレドニゾロンによる特発性血小板減少性紫斑病(ITP)の治療

小山 覚 (済生会新潟第二病院血液化療科)

【対象と方法】当科で診断された血小板数3万以下の未治療ITP 5例を対象とした。診断が確定次第、vitamin C 一日量1.8gを投与した。さらに柴朴湯7.5gの経口投与を併用し、血小板減少に起因する出血症状が出現した場合はPSL 1mg/kgの投与を開始し2週毎に減量した。【結果】1例でvitamin C単独投与で約1年の経過で血小板数が正常化している。1例ではPSL投与中止後もvitamin Cと柴朴湯の投与で1年以上血小板数が7～8万に維持されている。2例はvitamin Cと柴朴湯の投与期間が2～3月で、血小板数2万前後で経過しているが出血症状は出現していない。1例はPSL

減量中で血小板数は正常化している。【結論】ITP患者に対し、vitamin Cや柴朴湯などの投与は副作用も少なく試みる価値があると思われた。PSL療法が適応となるITPに対しても、vitamin Cと柴朴湯を併用することにより治療効果を増強する可能性があり今後も検討して行きたい。

3) G-CSF単独治療により造血三系統の改善が認められた高齢者AML症例

漆山 勝・増子 正義 (佐渡総合病院内科)
服部 晃
丸山 聡一・青木 定夫 (新潟大学第一内科)

MDSから発症した高齢者AML(M1, 70才男)症例にG-CSF単独治療を施行し造血三系統の改善を認めた。【主訴】全身倦怠感。【現病歴】平成3年7月汎血球減少症あり。RAEBと診断。その後汎血球減少は進行し、平成5年7月27日にはWBC $900/\mu\text{l}$ 、Hb $5.7/\text{dl}$ 、P1t $0.8/\mu\text{l}$ 、BMはNCC $2.2/\mu\text{l}$ 、Mg $k0/\mu\text{l}$ 、Blast 32%となり、AML(M1)と診断。【経過】この時点で上顎の歯槽膿漏が高度となり、血小板輸血を施行後歯科で緊急抜歯。好中球が100未満と少なく、抜歯後感染症の恐れもあったため、8月2日よりG-CSF 150μ 一日一回皮下注を開始。G-CSF開始後造血三系統の増加(WBC $6,500/\mu\text{l}$ 、Hb $8.6/\text{dl}$ 、P1t $2.8/\mu\text{l}$)と芽球の減少が認められた。その後G-CSFの少量間欠療法にて末梢血所見の改善を維持している。

4) 高齢者悪性リンパ腫の治療成績

青木 定夫・森山 美昭
品田 章二・柴田 昭 (新潟大学第一内科)
高齢者悪性リンパ腫 THP 甲信越地区研究会

【目的】高齢者悪性リンパ腫に対するピラルビシンを含む化学療法の治療効果について報告する。【対象】1990年3月より1991年12月までに、高齢者悪性リンパ腫 THP 甲信越地区研究会に登録した65歳以上の非ホジキンリンパ腫症例37例である。【方法】治療プロトコールは、A: THP-COP (THP $30 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, CPA $500 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, VCR $1 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, PSL $30 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1} \sim 5$)、B: CHOP (DXR $30 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, CPA $500 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, VCR $1 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, PSL $30 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1} \sim 5$)、C: THP-COPE (THP $30 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, CPA $500 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, VCR $1 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, ETP $80 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1}$, PSL $30 \text{mg}/\text{m}^2\text{D1} \sim 5$)を封筒法に

てランダムに選択した。【結果】① 登録症例はA：12例，B：14例，C：11例でその背景因子には差がなかった。② 治療法別効果では奏効率がA：80.0%，B：63.6%，C：87.5%と有意差はなかったがBでやや劣った。③ 生存期間の解析ではBが450日以内に全例死亡したのに対し，A，Cでは50%生存が800日以上である。④ 副作用はBがA，Cに比して有意に少なかった。【結語】THP-COP療法は有効率が高くかつ安全で高齢者悪性リンパ腫治療の第1選択と結論づけられた。

II. 特別講演

高齢者の造血器腫瘍の治療

東京都老人医療センター血液科部長
森 真由美 先生